



THE PHENOMENOLOGICAL ASSOCIATION OF JAPAN

THE PHENOMENOLOGICAL ASSOCIATION OF JAPAN

SECRETARIAT: Osaka University, School of Human Sciences, Contemporary Thought

1-2 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871 JAPAN

日本現象学会事務局

〒565-0871

大阪府吹田市山田丘 1 番 2 号

大阪大学人間科学研究科基礎人間科学講座現代思想研究室

TEL: 06-6879-8075

E-mail : paj-office@pa-j.jp 郵便振替 00980-9-109153

事務局便り

2018年3月12日

日本現象学会会員各位

拝啓 春寒の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2017年4月より大阪大学が事務局となりました。現象学会委員の皆様および会員の皆様には、様々な形での事務局運営上のご支援とご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。新年度の研究大会は、東京大学（本郷キャンパス）にて11月17日と18日にわたって開催されます。実り豊かな大会になることを祈念しつつ、今後とも皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

敬具

I. 事務局便り、研究大会プログラムの電子化についてのお知らせ

事務局便りならびに研究大会プログラムのメール配信を希望されます方は、タイトルに電子メール配信希望とつけ、paj-office@pa-j.jpまで、お名前、ご所属、配信先メールアドレスを記載の上、メールしていただけますよう、ご協力お願いします。メール配信の場合は、郵送は致しませんのでご了承ください。

また、事務局便り、ならびに研究大会プログラムにつきましては、HP上にアップいたします。

II. 会員名簿作成並びに簡素化のお知らせ

来年度は名簿作成の年となっております。委員会にて名簿の簡素化の提案がされましたので、お名前と所属のみを記した名簿を作成いたします。所属等変更があった方は現象学会のHP (<http://pa-j.jp/index.html>) にアクセスしていただき、グーグルフォームに記載してください。

Ⅲ. 第 40 回研究会個人研究発表・ワークショップの募集

第 40 回研究会は、2018 年 11 月 17 日（土）と 18 日（日）に東京大学・本郷キャンパスにて開催されます。

a. 個人研究発表の募集

個人研究発表を希望される会員は、以下の要領で発表要旨を作成の上、事務局へ Word ファイルを添付の上、電子メールにて提出してください。

外国語（英語・ドイツ語・フランス語）での発表が可能です。

個人研究発表要旨応募要領

① 字数制限：

（日本語での発表の場合）A4 版用紙 2 枚（2400 字）以内

（原稿用紙のフォーマット：40 字×30 行×2 枚）

（外国語での発表の場合）A4 版用紙 2 枚（字数 800 語）以内

（参考文献は字数に含みます。また、文字数・原稿用紙両方の規定を厳守のこと）

② タイトル・様式など：

冒頭に、別紙で、タイトル・氏名・連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）・所属を必ず記載してください（枚数・字数に含まず）。

② 期限・送付先：

2018 年 5 月 31 日（木）（期限厳守）

事務局（paj-office@pa-j.jp）宛

④ 備考

- ・『年報』第 34 号に論文が掲載される予定の方は、今年度は発表ができません。
- ・発表の可否は、委員による審査の上、7 月下旬頃にご連絡致します。（7 月中に連絡がない場合には、事務局まで確認の連絡をするようにお願いします。）
- ・発表可となった発表要旨は、日本現象学会のHP上で公開します。
- ・発表要旨のタイトルを研究会での発表の際に変更することは認められませんのでご注意ください。ただし、副題を添えるなどの変更は認められます。
- ・発表原稿は、当日二部ご用意のうえ、事務局にご提出ください。また、同じ原稿を事務局（paj-office@pa-j.jp）まで発表後一週間以内に電子メールにてお送りください。
 - ・個人研究発表時間は 30 分です（質疑応答は別に 15 分）。
- ・発表の際、事務局に提出する発表原稿がそのまま査読用の原稿となりますのでご注意ください。
- ・発表原稿の字数制限：（40 字×30 行×10 枚）、外国語（5000words 以内）を厳守してください。（注については、脚注でも構いませんが、電子ファイルで受け取った時に形式がくずれることがございます。文末注を推奨します。また、注及び参考文献も総字数に入ります。）
- ・発表原稿のうち、委員による審査を通過したものが『年報』35 号（2019 年 11 月刊行予定）に掲載されます。なお、掲載論文については、欧文レジュメも掲載されます。

b. ワークショップの募集

ワークショップ(萌芽的・実験的テーマに関する共同研究)を会員から募集いたします。以下の要領で発表要旨を作成の上、事務局へ**Word ファイルを添付の上、電子メール**にて提出してください。

ワークショップ応募要領

①企画案：

題目、オーガナイザ〔幹事〕名(所属)、提題者名(所属)、要旨(各提題者の発表内容を含む)をA4版用紙1枚(字数1600~2000字程度)にまとめてください。別途(A4版1枚)表紙に、オーガナイザの方の連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を記入してください。

③ 期限・送付先：

2018年5月31日(木) (期限厳守)

事務局 (paj-office@pa-j.jp) 宛

③備考・オーガナイザ(1名)は日本現象学会会員に限ります。

- ・提題者は非会員でも構いません。提題者の人数に制限はありません。なお、オーガナイザと提題者がすべて同じ所属であることは認められません。
- ・ワークショップの時間は、原則120分です。
- ・発表の可否は、委員による審査の上、7月下旬頃にご連絡いたします。
- ・ワークショップ報告書(10000字)が、『年報』35号(2019年11月刊行予定)に掲載されます。

IV. 「研究奨励賞」について

2018年度の第7回受賞者は、**横山陸氏**(「マックス・シェーラーにおける「感情の哲学」)に決定いたしました。

- ・各年度の受賞に当たって編集委員会で下記の条件のもとに選定の審議が進められます。

①受賞審査対象は、大会発表時に提出された投稿論文とする。

②受賞者の資格は、40歳以下(当該年4月1日現在)とする。

③副賞として、金二万円を贈呈する。

④「研究奨励賞受賞者」については、本人の希望を確認のうえ、「日本学術振興会育志賞」または「日本学術振興会賞」の候補として推薦する。

V. 学会費納入のお願い

2017年度までの学会費をまだお支払い頂いていない方は、早急に納付頂きたく存じます。封筒に添付された宛名ラベルの右下に記載された数字をご覧ください。これが未納金額を示しています。

ご確認の上、同封いたしました郵便振替用紙にてお振り込み下さい。

(例、3000→要納入金額3,000円。0の方には振り込み用紙を同封しておりません。また、これまでの会費の納入額が規定額より多いなどにより、金額が異なる場合がありますのでご確認ください。疑義のある場合には事務局までお問い合わせください)。すでに納入された方には、行き違いをお詫びいたします。

なお、会費未納3年(宛名ラベル9000以上)で『年報』送付の停止、未納5年(宛名ラベル15000)で強制退会(未納分を納入しない限り再入会不可)となりますので、会費を滞納されている方はご注意ください。

VI. 『現象学年報』のバックナンバーの廃棄について

『現象学年報』の電子化(現在手続き中)に伴い、在庫管理が困難となっている『現象学年報』のバックナンバー(刊行後5年以上のもの)については、廃棄処分といたします。

VII. 転居先不明の会員について

VIII. 会員異動のお知らせ(以下敬称略)

IX. 委員会議事録要旨

日時: 2017年11月11日(土) 12:30~13:50

12日(日) 12:25~13:45

場所: 大阪大学(吹田キャンパス・人間科学研究科本館 12室)

出席者(敬称略):

11日

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|---------|
| 永井 | 稲原 | 陶久 | 安部 | 氣多 | 小手川 | 三村 | 和田 | 浜渦 | 榊原 |
| 谷 | 井上 | 河野 | 田口 | 加國 | 中 | 齋藤 | 吉川 | 村上 | 井上(事務局) |

12日

| | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-----|----|----|---------|----|---|
| 村田 | 稲原 | 陶久 | 安部 | 小手川 | 三村 | 和田 | 浜渦 | 榊原 | 谷 |
| 井上 | 河野 | 田口 | 加國 | 齋藤 | 吉川 | 村上 | 井上(事務局) | | |

議題

①総会議長の選出(開催校教員:村上)

②各委員会からの報告・提案

a. 企画実行委員会（今年度活動報告ほか）

- ・発表要旨の審査：問題あるものだけ企画実行委員会で審議し、結果を委員会にあげる。
それ以外の場合、特に問題あるものが無い場合は事務局から委員全員に報告。

b. 編集委員会（年報 33 号発行報告、研究奨励賞ほか）

- ・奨励賞は横山陸氏、「マックス・シェラーにおける「感情の哲学」
- ・査読結果の郵送を続けるかどうかについては継続審議。
- ・書評については若手の意見を反映できるように、今後編集委員会で検討（WG の設置など）
- ・奨励賞の副賞を変更：来年度より副賞 2 万円、英文訳を翌年の『年報』に掲載できる、
北欧学会若手枠への推薦

c. 国際交流委員会（今年度活動報告）

- ・来年度の派遣：浜渦委員による検討

③2016 年度決算報告ならびに監査報告

④2017 年度予算案

⑤入退会審査

⑥2018 年度大会について

開催校：東京大学・本郷キャンパス（予定）

⑦事務局提案事項

a. 会計年度の会則への記載。

4・1～3・31 と記載する→承認

b. 大会の出欠はがきの停止。

出欠 HP で確認。住所変更はグーグルフォームでの入力を検討。

c. 名簿簡素化

- ・住所抜き名簿で来年から作成する。
- ・住所変更はグーグルフォームでメールアドレスを入力。事務局だよりにその旨を記載。
- ・簡易版も電子化するか。パスワードかけて。ダウンロードの可能性も（事務局の裁量で簡素化の旨、総会で確認）

d. 郵送物の電子化の可能性を探る。

⑧その他

男女共同参画・非-常勤研究者支援WGを委員会へと変更。

委員会形態の改革は今後の検討課題